情報提供資料

作成 2026年10月29日
公益財団法人日本中毒情報センター

【緊急】無水硫酸マグネシウムを主成分とする入浴剤により子どもがやけどをする事故が発生しました

無水硫酸マグネシウムを主成分とする入浴剤で子どもがやけどをする事故が発生しました。事故の概要は次のとおりです。

> 浴槽に入浴剤（成分：無水硫酸マグネシウム）を入れる際にこぼれて、スプーン 1 杯程度が 3 歳の子どもの足の甲にかかった。子どもはすぐに泣き出し、皮がめくれたようになっていた。すぐに水洗して救急病院を受診した。受診時、水疱ができており、Ⅱ度の熱傷と診断された。

●硫酸マグネシウムについて

硫酸マグネシウムを主成分とする入浴剤が「エプソムソルト」として販売されています。

硫酸マグネシウムには、結晶水を含む硫酸マグネシウム水和物と、結晶水を含まない無水硫酸マグネシウム（製品によっては『硫酸マグネシウム（無水和物）』と表示）があります。

本事例の入浴剤は無水硫酸マグネシウムを主成分としており、水に溶ける際に発熱するため、濡れた皮膚に付着したことでやけどが起こったと考えられます。本製品には、「水分と反応して熱を発しやすいので濡れた手や体で直接触れないで下さい」との注意書きがあります。

なお、一般的な「エプソムソルト」は硫酸マグネシウム水和物を主成分とし、水に溶ける際に発熱の危険はありません。

（次ページの実験結果もご参照ください）

●事故を防止するために以下の点に注意しましょう。

- 製品の成分、使用方法、注意書きをよく読んで使用しましょう。
- 無水硫酸マグネシウムを主成分とする入浴剤を使用する場合は、粉末が直接皮膚に付かないよう注意しましょう。
- 小さなお子さんがいるご家庭では、無水硫酸マグネシウムを主成分とする入浴剤の使用は避けましょう。

事故が発生し、受診すべきか判断に迷った場合は中毒110番にご相談ください。
公益財団法人日本中毒情報センター　中毒110番電話サービス（一般向け 365日 24時間対応）
■大阪中毒110番　072-727-2499　　■つくば中毒110番　029-852-9999

本資料を引用又は使用して資料作成・報道等を企図される場合は、必ず事前にその内容について日本中毒情報センター（本部事務局　電話：029-856-3566）の承諾を得、「公益財団法人　日本中毒情報センターの調査による」旨明記して下さい。

公益財団法人 日本中毒情報センター Copyright(C) 2026 Japan Poison Information Center. All Rights Reserved.

【実験】入浴剤と水を混ぜたときの温度変化

●方法

入浴剤 A（主成分：無水硫酸マグネシウム）および入浴剤 B（主成分：硫酸マグネシウム水和物）をそれぞれ 2.5 g ずつ容器に入れ、各容器に水 2.5 g を加え、温度変化を測定した。

●結果

入浴剤 A（主成分：無水硫酸マグネシウム）では、26.6℃であった温度が、水を加えてから 8 秒後に 38.8℃、17 秒後 66.5℃となり、51 秒後に最高温度 77.4℃となった。
入浴剤 B（主成分：硫酸マグネシウム水和物）では温度は上昇しなかった。

*本実験は事故状況を再現したものではありません。
*温度変化は製品や実験条件によって異なります。

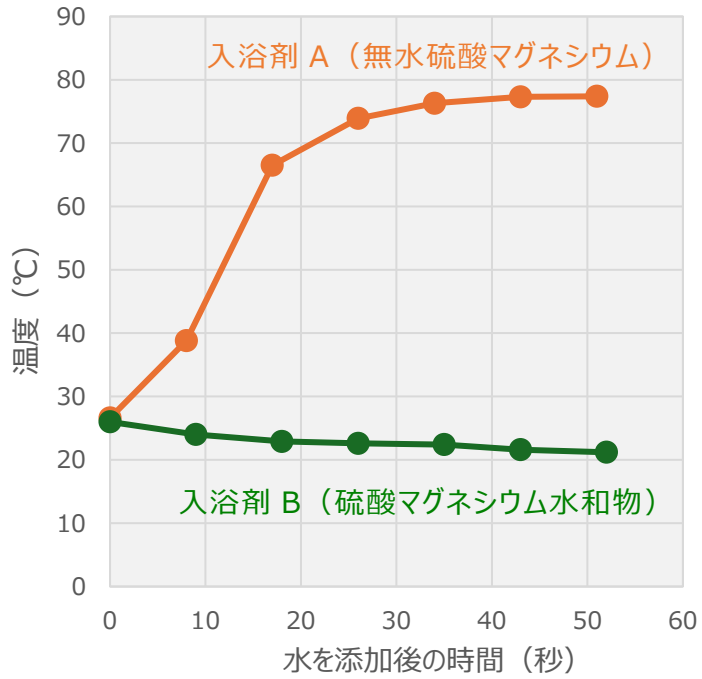

図 1　入浴剤に水を添加後の温度変化

以上

本資料を引用又は使用して資料作成・報道等を企図される場合は、必ず事前にその内容について日本中毒情報センター（本部事務局　電話：029-856-3566）の承諾を得、「公益財団法人　日本中毒情報センターの調査による」旨明記して下さい。

公益財団法人 日本中毒情報センター Copyright(C) 2026 Japan Poison Information Center. All Rights Reserved.